

国立大学法人  
奈良女子大学通信

ならじよ奈良女

Today

vol.  
23  
October  
2014



濱川 真衣 (はまかわ まい)  
大学院人間文化研究科博士前期課程  
住環境学専攻2回生  
出身校:香川県立高松高等学校

小菅 佐依 (こすが さえ)  
生活環境学部住環境学科3回生  
出身校:名古屋市立菊里高等学校

特集

[対談] 副学長×在学生

山村の未来を考える奈良女生

～地域づくりと自己実現～

# 特集

「対談」副学長×在学生

## 山村の未来を考える奈良女生

### ～地域づくりと自己実現～

奈良県南部に位置する、野迫川村。人口は※484人と、県内で最も人口の少ない自治体です。北には高野山、南には伯母子岳や護摩壇山が連なり、夏は涼しく、冬には多くの降雪があります。この野迫川村を舞台に、一人の奈良女生がさまざまな取り組みで地域づくりを行っています。その濱川真衣さん(大学院人間文化研究科)と、小路田泰直副学長が対談しました。

※2014年9月30日現在



「田舎コン」の様子(2014年9月13日～14日)

特集 「対談」副学長×在学生  
山村の未来を考える奈良女生  
～地域づくりと自己実現～

- 02 ▶
- 06 ▶ 教養広場
- 10 ▶ わたしのチャレンジ
- 11 ▶ 卒業生からのメッセージ
- 12 ▶ 教員著書紹介
- 14 ▶ クラブ紹介・国際交流
- 15 ▶ 就職情報



### 野迫川村の魅力

**濱川さん** 野迫川村との関わりは、学部生のときに卒論の調査地として野迫川村に入ったことがきっかけでした。この村は2011年9月、台風12号による「紀伊半島豪雨」の影響で多くの土砂災害に遭った地です。その復興計画の中で復興住宅を建設するために、専門のコンサルタントと協力して調査をはじめ

ました。大学院に進むと決めたときに、野迫川村で2年間かけてこの村のためになることをしようと思いました。

**副学長** 野迫川村では過疎化が問題となっていますよね。客観的に台風被害にあったこと以外にも、自分自身の主体的な思いもあったのではないですか。

**濱川さん** 全人口が500人弱で、そのうち65歳以上の高齢者が4割以上を占める野迫川村。全国的に見ても人口減少率が非常に高く、目に見えて過疎化、高齢化が進んでいる地域であることを知りました。実際に行ってみると、見渡す限り緑があり、自然とともに生きていることが感じられました。また、住民がみんな知り合いで、まるで大家族のようにゆったりとした生活を送っているなど、村のおおらかさに魅力を感じました。そこで「奈良県南部のモデル」として南部地域の中でも野迫川村で何かできないだろうか。これによって南部地域の人口減少問題に対する提案に行きつくことが出来るのではないかと考えました。

**副学長** 奈良県のコンペに応募されたと聞きました。つまりこれは県の政策でもあるということ。災害復興支援の一環だと思えますが、私だからこそ思いついたというようなアピールポイントはありますか。

**濱川さん** 「県内大学生が創る奈良の未来事業」という公募が奈良県でありました。私は「野迫川村に来る人を増やすこと」「村の人を動かすこと」、そして最終的には村の人口を増やす、つまり「活動人口を増やすこと」を目的とした企画案(自然の恵みリスト(ターゲット事業)を提出し、それが採用されて事業がスタートすることになりました。私自身、立案する以前から、村の人たちと親交を深めていたので、現場の生の意見を聞く機会が多くありました。さまざまな情報を得る

「田舎コン」スタッフ(奈良女子大学生)の集合写真

ことができたので、住民の方に寄り添った形での提案ができたのではないかと、また今後もできるのではないかと考えています。

## 地域を元気にしたい

**副学長** この事業は「田舎コン」PRビデオ「雪まつり」の3本柱で構成されているので、これはどういふものですか。

**濱川さん** まず「田舎コン」は、同じ奈良県に住んでいても、野迫川村を知らない若者がたくさんいることに気づき、イベントを通じて、少しでも村の良さを知ってほしいと思ひ、若年層に向けたPRイベントとして企画しました。これはその名の通り、「田舎でする合同コンパ」です。村内、村外問わず、20歳から35歳の独身男女を募り、男性10人、女性8人の参加がありました。郷土料理づくりをはじめ、アマゴのつかみ取り、キャンプファイヤー、星空鑑賞、林業体験などを通じて交流を深めていけるように企画しました。

**副学長** 「田舎コン」の参加者は今後、野迫川村とどう関わるのですか。

**濱川さん** 私が考えていたのは婚活に重きをおいたイベントではなく、まずは村のことを知ってもらい、好きになってもらい、またここに遊びにきたいと思ってもらうためイベントでした。今後は婚活だけでなく、子育て中のファミリー向けイベントなども企画、立案していく予定です。

**副学長** 高齢者が主体となった地域活性化施策は多くありますが、過疎化、高齢化の進んだ地域には、もつと若い世代が入っていないことには、本当の意味で地域の活性化はないと思います。おそらく野迫川村の人はこのような活動によって、若い人がここに住んでくれないだろうかと期待していると思うのです。そして村で子どもが生まれてくれたらと思っているのではないかと。仮にそう

しいですね。濱川さんの修士論文のテーマは決まりましたか？

**濱川さん** 「野迫川村の伝統文化と集落維持の関係」というテーマで考えています。伝統文化やお祭りごとがなくなりつつある現状において、それが維持できている集落ほど人の定着率が高いのですが、その関連性から文化を維持するのか、集落を維持するのか、その両面を掘り下げていきたいです。



**副学長** 過疎の研究にはものすごく興味があります。奈良県の魅力のひとつは日本有数の大都会がここにあったこと。かつ、ものすごい田舎もあるわけです。北部だけを大和と言わず、十津川を含めて大和の国といえますね。ほかでは昔の国と現在の県が違っていたりします。奈良県は明治時代に少しだけ変動がありました。歴史上はいつも大和の国だったわけですか。こういうところは全国的にも珍しいと思います。日本中のごく研究するよりも、考えるよりも面白い場所が大和の国「奈良」だと私は思っています。

**濱川さん** 奈良女子大学が奈良県北部にあ



**濱川 真衣 (はまかわ まい)**  
2013年奈良女子大学生活環境学部住環境学科卒業、同年奈良女子大学大学院に進学し、人間文化研究科博士前期課程住環境学専攻に在籍中。奈良県が募集する「県内大学生が創る奈良の未来事業」で、野迫川村の活動人口を増やすことを目的とした「自然の恵みスタート事業」を政策提案し、優秀賞を受賞。野迫川村の活性化に携わりながら、同村の伝統文化と集落維持に関する修士論文の作成に取り組んでいる。

いう期待があれば、どう応えたいですか。

**濱川さん** 今後も参加者が野迫川村とつながりがもてるように、引き続き情報を発信していきたい。村に来やすくなる仕組みを青年団と協力して仕掛けていきたいと考えています。野迫川村の青年団は20代の方が中心で、若い力で互いに協力し合っていて、思っています。あとはこの事業にも含まれますが、PRビデオづくりでは行事ごとに撮影を行い、「食」「自然」などのテーマを設け、村の魅力を伝える映像を撮り始めています。それはいずれインターネットで配信したり、物産展などでも流していく予定です。また、冬には雪まつりを企画しています。雪が多く降る地域ですので、豊かな自然を使った昔遊びを、地域の子どもたちに伝えて残していけたらと思います。

**副学長** 私の父親が生まれた島根県の隠岐島海士町で60歳の方から「俺は青年団長や」

り、大学自体が地域の商店街の方とつながっていますから、今後はその人たちと南部の人たちをつなげることもできるのではないかと考えています。村の人からも、「奈良女カフエ」をしたらどうかと提案されたこともあります。各集落には廃校になった小学校の木造校舎が残っています。それを使って何かできないかと考えています。

**副学長** ヨーロッパではお城がホテルになっているりしますよね。何か新しい建物を造るのも良いと思います。本学も創立時に記念館を造りました。人間はエネルギーがあるときに象徴的なものをつくりたいと思うのです。野迫川村で濱川さんの活動に形を与えてくれるもの。それを村の人たちと一緒に考えていってほしいですね。

**濱川さん** 副学長から台風被害があった傾斜地に、奈良女の樹を植えるか、建物を建てるかのご提案いただきました。植樹や建物が

という話を聞いたことがあります。過疎地とはそういうもので、凄まじい過疎化が進んだ地域の中には、60歳が若い人の分まで頑張っていたりします。海士町は高校生を島留

## ある日のスケジュール ～ヒアリング調査編～

1日目	
8:00	レンタカーを借りる 奈良市 出発
10:30	野迫川村 着
11:00	野迫川村役場にて産業課職員とヒアリング調査先の確認
12:00	村内のレストランで昼食
13:00	ヒアリング調査(生活実態調査)開始 ※1軒ずつ自分で訪問します
17:00	ヒアリング終了
18:00	宿泊先の民宿で夕食
19:30	野迫川村青年団と今後のイベントの打ち合わせ
21:00	民宿へ
2日目	
翌6:00	野迫川村 出発
8:00	奈良市 着 レンタカー返却

あれば今後、学生も来やすくなりますし、そのきっかけにもなるのではないのでしょうか。

**副学長** 何か新しいことをする人は面白い。ただ、新しいことは人にはなかなか理解されません。人それぞれに感覚が違いますから。そこでまず一人ではじめてみるのが一番良いと思います。可能性があれば必ず人はついてきます。そして手伝ってくれる人が増えていきます。さらに続けていけば、お金を投じて儲かるかもしれないと思う人が出てきます。そうすると資金が集まり、人もさらに集まってくる。まずは走り出すことが大事です。思いのままに走り出す人は魅力的です。そういう人を一人でも本学から輩出できることはとても誇らしいことです。

## 現在、そして未来へ

**副学長** 濱川さんにとって奈良女子大学はどんなところですか。

**小路田 泰直 (こじた やすなお)**  
副学長(企画・広報担当) 専門:日本近代史  
京都大学文学部卒業。橘女子大学助教授、奈良女子大学文学部教授を経て2013年4月より現職。  
主な著書に「日本史の思想」(柏書房)、「卑弥呼と天皇制」(洋泉社)などがある。

学させるなど、人口を定着させようと努力していることで有名になりました。過疎化を防ぐための取り組みは盛んになってきているし、政府もそういった動きを加速させようとしていますね。ただし、「学生として関わる」と、修士の学生は研究者ですから、研究者として関わるのでは少し違ってくると思います。濱川さんには研究者ということを強く意識した上で、良い関わりをしてほしいです。

## 研究に取り組む姿

**副学長** 濱川さんと同じような関心を持っている仲間はいませんか。

**濱川さん** この事業を動かすために「キャリアデザインゼミナールB」という授業が立ち上がりました。イベント運営でメンバーだけでは出来ないことを、その受講生たちに手伝ってもらっています。野迫川村事業では30人ほどが参加してくれています。

**副学長** 奈良県南部はどこも過疎化という深刻な問題を抱えています。綺麗などろばかりではないことも理解して活動してほ

**濱川さん** フィールドに出て研究活動する中で感じたことは、奈良女はネームバリューがあり、人々からの信頼度が高いということです。みなさん大学に対する理解があるので、ヒアリング調査では安心して話をさせていただきます。奈良女のブランド力は大きいと感じました。授業では専門科目を幅広く学習することができ、学んだことがフィールド活動で生かしやすいです。「都市計画」の研究室所属ということもありますが、商店街の人たちと仲良くなれたことで多くの人脈ができました。大学祭のときは商店街の人たちとコンピを組んでメニューを考案し、お店を出したことがあります。勉強だけでなく、同じように何かを実現しようとする志ある仲間が集まる場所が奈良女だと思います。

**副学長** 卒業後の進路は決めていますか？

**濱川さん** 就職して野迫川村に移住しようと思っています。私が一番したいことは、旅行ツアーを企画すること。そのために村の人を巻き込んで旅行商品をつくることも検討中です。都会にはしたくないけれど、人は来てほしいし、人口も増やしたい。でも秘境のままであってほしいといった面でシレンマはあります。人集めはしたいですが、一度村を離れた人がもう一度村に戻って来られるような仕掛けができればいい。そのためには雇用対策も必要だと思います。

**副学長** 生まれ育った街を離れて野迫川村に移住する。それは、あなたの持つ生まれた勇気だと思えます。素晴らしいですね。世間はまだまだ東京志向ですが、最近の若者には地元志向というひとつの魅力が生まれつつあります。つまり、濱川さんは最先端なのかもしれません。せっかくなので人がやらないようなことをしてください。期待しています。

【2014年9月25日 奈良女子大学にて】

# 教養広場

文学部  
人間科学科  
教育学・人間学コース  
教授  
西村 拓生 にしむら たくお

——西村先生の研究テーマについて教えてください。

私の研究テーマはジャンルでいうと「教育哲学」になります。その中でも大きく二つの柱に分けることができます。ひとつは「教育思想史研究」（思想研究）、もうひとつは「臨床教育学」（臨床研究）です。

思想史研究の対象は「美的教育論」と言われるものです。分かりやすく言うと、人間は歌を歌ったり、楽器を弾いたり、絵を描いたりしますよね。それらを美的活動と総称するのですが、そういった美的活動は人間にとって大きな意味があると、古来、東洋でも西洋でも考えられてきました。その美的活動の意味を論じる思想を歴史的にたどるといのがひとつの研究の柱です。18世紀後半から19世紀初頭に活躍したフリードリヒ・フォン・シラーというドイツの詩人がいます。彼は「人間の美的教育について」という論文を書きました。これはその領域では最も有名な古典なのですが、私はその論文が発表されてから約200年間にわたり、どのように解釈されてきたのかを調べていくという研究をしています。



学校教育に縛られないというのが私のスタンスで、そのような広い関心を持って来る学生が多いです。

私が指導している卒論のテーマをご紹介するのが分かりやすいと思います。たとえば広島や沖縄に平和ミュージアムがありまですね。そのミュージアムで子どもたちが平和についてどのように学んでいるか。また、美術大学に進学した人がどのように進路選択をしたのか、など。基本的には学校という枠に縛られず、もっと広く教育をとらえていくというのが私のゼミの特徴だと思います。ですので、学生には自分にとって興味があるテーマなら何をしても良いよと言っていきます。どんなテーマでも掘り下げていけば必ず教育に結びついていきます。

ただ、興味があるだけでは研究にはならないので、しっかりと「問い」を立てるということを大事にしています。たとえば、ある学生はピアノのお稽古の意味について研究しています。本人にとってピアノを習っていたことは、とても意味があることであったので、その意味を考えたいというのが最初の関心でした。しかし、それだけでは問いにはな

名な古典なのですが、私はその論文が発表されてから約200年間にわたり、どのように解釈されてきたのかを調べていくという研究をしています。

もうひとつの研究「臨床教育学」では、実際に教育現場に赴きます。その際、教育について教育現場ではどのような言葉で語られているのか。その「言葉」に注目し、分析することを通じて教育を考えていく研究です。本学には附属の幼稚園から高等学校（中等教育学校）がありますので、基本的にはそれをフィールドとして研究をしています。

——研究テーマの面白さは何ですか。

私は小学生のころからフルートを吹いていて、学生時代にはオーケストラに参加するなど特に音楽を通じて芸術にふれてきました。私自身は芸術体験や美的活動に大きな意味があると実感していたのですが、何故そのように思うのかが不思議でした。その不思議を追求していきたくて思ったことが、このテーマで思想史研究をするきっかけであり、面白みでもあります。

「臨床教育学」の方は、奈良女に赴任して文学部の中で教育学の担当になった時には、従来通り思想史研究をしていくだろうと思っていました。しかし、私が赴任して2年目の2001年に文科省の方針が変わり、本学のような教員養成系ではない大学の附属校の在り方が問われるようになりました。そこで当時、文学部だけの附属校だったところを全学部の附属校に組織替えして、大学の研究機関として活用することになりました。これが教育現場での実践研究のきっかけでした。



本学の附属校はとても面白い学校です。たとえば附属小学校は、先生は教室の後ろで腕組みしているだけでも、子どもたちが自分たちで授業を進めていく、ユニークな学校です。教育現場では面白いことがたくさん起こっています。ただ、その現場は見る人によって全然違って見えてきます。私が面白いと思っで見ていることを面白くないと思う人もいれば、私が全然気が付かない面白さに気づく人もいます。人によって何故こんなに見方が違うのだろう、と考えたとき、教育現場の見方が何に左右されているのかが疑問になりました。教育を語る言葉があつて、その人がこれまでどのような言葉に接してきた、経験したものをどのような言葉で語るかによって、そこに現われてくる教育の現実は全く異なります。その違いがとても興味深いと思うのです。

文学部 人間科学科 教育学・人間学コース  
教授(教育システム研究開発センター長)  
西村 拓生 にしむら たくお

【研究テーマ】  
理論と実践を往還し、思想と現場をつなぐ教育学を志している。思想史研究としては、芸術教育論、美的教育論をテーマとして、特にシラーの論文「人間の美的教育について」の解釈史を研究している。また、本学の附属校やシュタイナー学校などを対象として、教育を語る「言葉」に着目した臨床教育学研究にも取り組んでいる。  
【担当授業科目】  
教職論、教育原理、教育史概論、教育史特殊研究、子ども史特殊研究、教育史演習、教育学研究演習、教育学卒業演習など。

——学生は何を学び、何を研究していますか。

教育学というと、教育大学などの教員養成系の大学では学校教育を前提にしている、基本的にはその枠組みの中でどのように教育するかを考えます。それに対して本学の場合は、教職課程もあつて教師になる人もいますが、むしろ学校や教育という枠組みそのものを問い直すことが特徴だと思います。私のゼミにも教育関係に就職志望の学生はもちろん来るのですが、狭い意味での

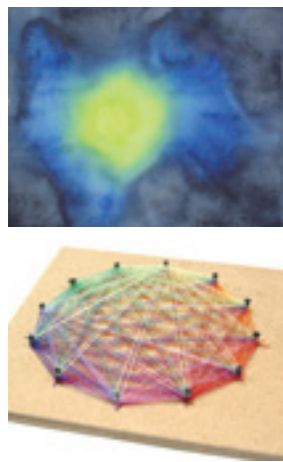
りません。意味といっても、それは誰にとつてのどんな意味なのかを絞り込む必要があります。たとえばピアノを習う本人であれば、現役の小学生に聞くのか、あるいはピアノを習ったことがある学生に聞くのか、など。彼女の場合、ピアノの先生向けに書かれている雑誌の記事を分析すれば、ピアノを習う意味が一般にどのように考えられているのかを一定の根拠をもって明らかにできるだろうと考え、その言葉を分析しています。

研究で大事なのは、何かをどれだけ根拠をもって言えるのかということ。良い問いを立てられれば、どんなことでも研究になり、教育や人間形成につながるのです。

——シュタイナー教育について教えてください。

私は2001年に京都府京田辺市でシュタイナー学校という新しい学校の立ち上げに関わりました。シュタイナー教育は、19世紀末から20世紀初頭にかけて活躍したルドルフ・シュタイナーというドイツの哲学者が創始した教育法です。学校の特徴でいうと、たとえば教科書がなく、芸術活動を大事にします。算数や国語を勉強する時でも芸術的要素が豊かに入っている教育が行われます。

京田辺市で保護者や教師によって学校を立ち上げる運動が起こったとき、シュタイナー教育は自分の研究テーマである「美的教育論」のとても面白い実例であること



思い、この運動に参加しました。実は私も保護者の一人でした。公教育の外側で学校をつくっていくプロセスの中で、さまざまな問題が起こりましたが、その時、現場でどのようなことを考えたのか。先に触れた附属校での臨床研究と併せて、それらの記録をまとめたのが著書「教育哲学の現場」です。

——「奈良女子大学教育システム研究開発センター」について教えてください。

本学の附属校の在り方を問い直し、組織替えをするに先だつてつくられたのが、この研究センターです。本学の附属校は伝統があり、ユニークで意義深い教育が行なわれている学校なので、そこで起こっていることをしっかりと研究して、その意義を社会に発信していくことというのがセンターの大きなミッションのひとつです。

センターをつくるタイミングもひとつ私たちが考えていたことは、幼稚園から大学院まですべてがそろっている本学の特色を生かし

ていくということ。教員養成系以外の国立大学ですべてがそろうのは全国でもお茶の水女子大学、筑波大学、広島大学のみです。このような本学の特色をさらに生かすべく、大学教育についても研究を進めています。

——今後の目標について教えてください。

教育システム研究開発センターの当初の志である、附属校の教育実践を研究し、発信していくということ、また大学そのものも研究対象として、センターの研究を通じて本学の教育をより良くすること、これらの活動をさらに充実させていくことが大きな目標です。個人の研究では、教育思想史研究でシラーの論文の解釈史研究をしてきた成果をまとめて出版することが目標です。

## 声

### ゼミ生の

西村先生はどんな先生？

温厚で語り口も柔らかな、すごく優しい先生です。私の研究に参考になるようなことがあれば紹介してくださったり、アドバイスをいただいたりするので、とても感謝しています。ただ、厳しいところはしっかり厳しく指導もしていただいています。就職に関しても何かと気にかけてくださる面倒見の良い先生だと思います。

どんな研究室？

この研究室の研究テーマが幅広く、私は「平和教育」に関心をもって研究をしています。ほかには音楽教育やミュージアムに関する研究、フリーターに関する調査・研究をしている学生もいます。「教育」といっても哲学やキャリアなど「教育」と名のつく分野がたくさんあり、ゼミ生みんなが「教育」をテーマに研究をしている中で、それに学びながら自分の研究を進めています。研究発表するときも年齢、学年に関係なく、質疑が出しやすい和気あいあいとした雰囲気、自分がやりたいこと、興味があることを思いっきり出来ますよ。



向原香葉(むこうはらかな)さん  
大学院人間文化研究科博士前期課程  
人間行動科学専攻 2回生  
出身校:京都学園高等学校

# 教養広場

生活環境学部  
心身健康学科  
臨床心理学コース  
教授

## 伊藤 美奈子

いとう みなこ

——伊藤先生の研究テーマについて教えてください。

私が心理学の道へ進むことになったきっかけは、学部卒業後に高校の教師(国語科)をしていたころ、担当クラスに不登校の生徒がいて、思春期の難しい心の問題に直面し、もう一度勉強し直す必要性を感じたことでした。そこで、高校で教鞭をとりながら、職場から一番近い大学の修士課程に進学し青年心理学を学びました。そして、ユングの理論を日本に広げられた河合隼雄先生の著書に感銘を受けたこともあり、先生のもとで学びたいと思うようになりました。大学院修了と同時に職場を退職し、当時河合先生が教壇に立つておられた大学の教育学研究科修士課程に再び入学し、博士課程に進学しました。博士論文では、学校臨床ではなく思春期青年期中期くらいまでの人格形成を、



にもそれぞれに意味があり、どの生き方もそれぞれに大変です。いろいろな経験を積むことで、カウンセラーとして共感できる引き出しは増えました。

とはいえ、プライベートでは自分の子育てについて反省したり悩んだり繰り返しています。我が子に対しては、理論通りにはいかなぬものだと、日々痛感させられています。自分で自分をカウンセリングすることはできませんが、誰かに話を聞いてもらうことの大切さは知っています。昔、流産を宣告された直後、若い助産師さんが「私は結婚も妊娠も出産もしたことはありません。だから流産の辛いお気持ちはわからないかもしれませんが、でもわかりたい...と思っていました」と、背中を当ててそばに寄り添ってくれました。カウンセリングでは「私は経験していないからわかりません」は通用しません。でも、安易な共感では何も伝わりません。あの助産師さんのように、「わからないからこそ、我が事」として聴かせていただきたいという気持ちが大変なのだと思えます。

——本学に来られて1年半。奈良の印象は？  
私は幼児期から高校までを奈良で過ごし

調査研究により論じました。ここでは「個人化」と「社会化」という二つの軸で人格形成をどう捉えるかということを中心に大きなテーマにしました。誰にも左右されない自分自身の生き方を守り抜くか(個人化)、人や社会との関係性を大切にするのか(社会化)、こういう二分法的な、あるいは一律反対とも言える葛藤は人生のあらゆる場面で起こってきます。この両方向を上手に伸ばしつつ、うまく折り合いをつけながら統合していくというモデルを立てて、実証していくものでした。

AかBかという葛藤の中でどのように自分を活かしていくかということは、今も自分の大きなテーマです。たとえば、教師という立場で大学院に戻ったときは、教師vsカウンセラーというジレンマがあり、その間ですごく揺れ動きました。また、一昨年度まで東京にいましたので、西と東の文化の違いや見えない壁を感じながら仕事をしてきました。スクールカウンセラーとしては、学校の内外をつなぐ微妙な立ち位置が求められます。そういう意味で、博士論文のテーマは自分の生き方にも関わっています。

——心身健康学科臨床心理学コースではどのようなことが学べますか？

学部生はまだ1回生しかいませんので今は基礎的な授業が多いですが、私の専門は学校現場の臨床心理学と思春期、青年期の心理学が中心ですので、今後は専門分野のことも伝えていきたいと思っています。大学院では知識面の講義だけでなく、院生たちを実習先へ連れて行き、現場を通じて共に学んでもらっています。後期からは、本学臨床心理相談センターでの個別面接実習も始まります。臨床心理学のおもしろさは、自らのフィールドを持って研究するところです。私の場合、スクールカウンセラーで出会った子どもたちや、学校現場で起こった出来事などから

ましたので、奈良は以前からなじみがある土地です。高校は本学の近くでしたので、そういう意味では育った土地に戻ってきたような懐かしさがあります。相談センターに来られた方にも、途中で鹿を見たり、キャンパスの中ですと見上げたら若草山が見えたりと、奈良という土地そのものを持つ癒しの効果があると思っています。

心理学を研究する上でも、自分で何かをゆつくり感じ考えることには向いている土地ではないかと思えます。土地や文化、歴史的なものが持っている包容力といったら良いのでしょうか。自然の懐に包まれ、穏やかな山並みを眺めているだけでほっとすることもあります。

——今後の目標について教えてください。

今後も院生たちとともにフィールドに出て活動していく中で、研究のテーマを見つけていきたいと思っています。研究者として成果を発信していくことも大事ですし、実践とカウンセリングを通して、悩んでいる方に届くような仕事も大切にしたいです。また、子育て番組などでメディアに出演する機会などは、難しい話より、悩んでいる方が肩の力を抜けるようなアドバイスができればと思っています。

また、長期的には、不登校の生徒たちの居場所をつくりたいとも思っています。センタリーに相談にやってくる、そのまま一緒に相談や勉強ができるような居場所を提供する。そして親の会や情報交換し合える場をつくるなど、親子両面でサポートできるような場所になれば、と考えています。

も研究のヒントがたくさん見つかります。そこで得たヒントをもとに、調査・研究をしていきますので、それをどのように研究にしているかに難しさとおもしろさがあります。また、自分が言葉で語るだけではなくて、データを自分で自分の言いたいことを伝えていくということも出来ます。この、心理臨床実践と研究の両方に関われるのが醍醐味だと思います。私自身も院生と現場を開拓しながら意義ある研究テーマを見つけ、一緒に研究していければと思います。

——文学部人間科学科心理学コースとの違いは何ですか？

私たちが所属する心身健康学科臨床心理学コースでは、心身健康というコンセプトの中で、心と身体の健康を見極めて、心の健康を支援する理論や技術を学びます。不登校やうつ、犯罪や発達障害など、多様な心の問題にも取り組んでいます。また、学部直結の大学院である心身健康学専攻・臨床心理学コースは、臨床心理士の資格を取るための訓練機関にもなっており、卒業後に試験を受けて合格すると臨床心理士の資格が得られます。さまざまなフィールドでの支援職や研究職をめざす院生が集まっています。

——臨床心理相談センターについて教えてください。

センターは2013年5月に開所しました。本学学生の相談ではなく、地域の方々を対象として年間300件ほどの相談件数を担当しています。子どもさんに関することから、ご自身の精神的な問題や人間関係、生き方の問題など、多様な心の問題を抱える方の心身の健康維持・向上を目的として、幅広い世代からさまざまな相談内容をお受けしています。

日本の場合、カウンセリングに対する敷居がまだ高く、世間的にはあまり広まっていないのが現状です。

女性の生き方はさまざまで、子育てを終えてから自分の時間が出来てようやく学び直せるという人もいます。どんな世代でもどんな状況でも、学びたいと思った時に学びの場を提供できるように大学であってほしいと思います。

## 声

### ゼミ生の

伊藤先生はどんな先生？

すごく可愛らしくてほんわかした先生です。専門が学校教育系の心理支援ですので、一緒に学校現場へ行き、子どもたちへの関わり方を勉強しています。実習先で私たちが考えたゲームと一緒にしているとき、先生は子どもたちに交じて真剣にゲームを楽しんでいたります。今年はアゲハを育てておられ、「蝶にかえったの!」と、さなぎから羽化させて学校に持って来られたときは驚きました。どこか少年のような心を持っている先生ですね。一方で、授業で私たちに教えてくださるときは、厳しくもあたたかくご指導いただいています。

どんな研究室？

私たちは1期生で研究室に先輩がいませんので、本来ならば先輩がしてくださるようなことも、先生が手厚く親身になって教えてくださっています。それぞれの興味、関心は違いますが、互いに気を許し合っているので集まって相談し合い、程よい距離感を保ちながら、楽しく研究しています。



大学院人間文化研究科博士前期課程  
心身健康学専攻 1回生  
左:岩垣千早(いわがき ちはや)さん  
出身校:大阪女学院高等学校  
右:三林咲実(みつばやし さきみ)さん  
出身校:三重県立四日市高等学校

生活環境学部 心身健康学科 臨床心理学コース  
教授(臨床心理相談センター長)

伊藤 美奈子 いとう みなこ

[研究テーマ]  
教育現場をフィールドにした臨床心理学(不登校やいじめ、教師のメンタルヘルスなど)および思春期以降の人格形成。最近では、不登校経験者の予後研究(追跡調査)や、いじめをめぐる心理的要因などを研究しています。また、学校現場や臨床現場と共同で、「いのちの授業・死の授業」や喪失による悲嘆をテーマにした研究を始めたところです。  
[担当授業科目]  
心身健康学概論/教育臨床心理学/学校臨床心理学/臨床心理学実習(学部)/臨床心理学面接特論I/教育心理学特論/教育心理学特論/学校臨床心理学特論/臨床心理学実習I/臨床心理学基礎実習II



——先生とカウンセリングとの関係についてはいかがでしょう？

私自身は独身時代が長く、東京では異郷の地において独り身で生きる大変さも経験しました。結婚後はなかなか子どもが授からず、流産を5回経験するなど、子どもがほしいのに恵まれない辛さ、その命を喪う苦しみも味わいました。その後、奇跡的に子どもを授かり、現在は子育てをしながら仕事をすると大変さを実感しています。昨年までは、子育てをしながら親を看る介護の大変さなど、いろいろな経験を重ねてきました。女性としての生き方には(もちろん男性の生き方

## 奈良を発信する

「伝えることを楽しもう」それが私たち放送局Broadcast(ビーナラジオ)の合言葉です。私たちはMonthlyで月2回、奈良と女子大をテーマにしたネットラジオを配信しています。

活動を始めたきっかけは、全国から学生が集まるという奈良女子大学の環境にあります。歴史が古く文化財などで有名な奈良ですが、大仏以外に見るものがないという意見もよく耳にします。私たち放送局では大学から奈良に来たという人がほとんどで、他の地域出身だからこそ気づいた奈良の魅力がたくさんありました。良いところがこんなにもあるのに、奈良にはその魅力を紹介する機会が少ない。そこで、大学生の視点から奈良の魅力を発信していきたいと、考えた方法がネットラジオでした。文学部の文化メディア学コースの協力のもと、2年ほど前から「ビーナラジオ」のネット配信が始まりました。

奈良と女子大をテーマにしたラジオですが、中でも奈良のイベントや奈良にまつわる話題を届ける「まほろばニュース」というコーナーは、ビーナラジオの人気コーナーです。今までに、金峯山寺の蛙跳び行事や、大学の目の前にあるきたまち案内所などを紹介してきました。このコーナーを通して地域とのつながりも生まれ、奈良国立博物館や奈良



川島 百恵  
かわしま ももえ

文学部人文社会科学科2回生  
出身校：三重県立上野高等学校

水落 しほり  
みずおち しほり

文学部人文社会科学科  
文化メディア学コース3回生  
出身校：新潟県立明倫高等学校

金澤 美果  
かなざわ みか

文学部人文社会科学科2回生  
出身校：京都府立城南学園高等学校

市消防局などでイベントのお手伝いをさせていただく機会も増えました。

特に、きたまち案内所の方々にはドキュメント番組制作といった多くの活動に協力していただき、目まぐるしくつなかりを築いています。私たちのラジオを聞いて、「女子大生のおしゃべりを聞いているようで楽しい」とコメントをいただきました。奈良の女子大生という視点から、これからも奈良と大学をつなぐ架け橋として活動を続けていきます。



放送コンクールに向けての番組撮影風景

## 「第25代ミス奈良の中西遼と申します。よろしくお願いたします。」



中西 遼  
なかにし はるか

生活環境学部生活文化学科3回生  
出身校：富山県立砺波高等学校

今年の4月からミス奈良として活動を始めてはや半年。ようやくこの言葉にも違和感を抱かなくなり、自分がミス奈良として活動しているという実感が湧いてきています。

奈良が好きで奈良女子大学を受験した私は、将来情報発信をする場で働きたいという漠然とした夢を持っていました。

しかし人生の先輩方である先生や両親、そして今まで関わってきた大人からあらゆることを教えていただきてきた私は、いつも情報を享受する側でした。そんな自分の夢と現実のギャップに悩んでいた時、友人と将来について話す機会があり、ミス奈良のオーディションの存在を知りました。私なんてミス奈良になれるはずがない。はじめはそう思いましたが、今までの自分の殻をやぶりたい、新たなことに挑戦してみたいと考え、友人の勧めもあってオーディションの参加を決めました。



夏旅フェアin岡山でのキャンペーン活動



命婦(みょうぶ)を演じさせていただいた春の天平祭(左)

人前にたつこと、学生としてはなく社会にでることにははじめは不安がありました。一学生では中々できない多くの経験をさせていただいております。この経験をプラスにしていきたいように自らを高めていきたいです。

またこの挑戦を通じて、何事にも挑戦してみることの大切さを感じました。自分なんて...と思ってしまうがちな私でしたが、挑戦すること、そしてその挑戦が実のために努力することを惜しまないようにしていこうと考えられるようになりました。今の環境を与えてくださった周りの方々に感謝の気持ちを忘れず、また私をミス奈良に選んでよかった、と思っていただけのように努力していきたいです。

## 科学とふれあう

私が初めて科学と出会ったのは小学校1年生のときです。地元で行われていた「科学の祭典」に参加し、色々な科学実験を通してすっかり科学の魅力にはまってしまうました。

「サイエンスオープンラボ(SOL)」に参加しよう!と思ったのは、子ども達に科学のおもしろさを伝えたいと思ったからです。SOLとは、理学部の全学科の学生が、科学をテーマに様々な企画を考え準備し、来場者の方に科学に触れてもらうという地域貢献事業に参加する授業です。普段の授業とは違い、企画を自分たちで一から作り出さなければならぬため、何から始めたらいいのか、どうすれば分かりやすく科学に親んでもらえるのかなど、全てが試行錯誤の連続でした。昨年は、初めての体験ということもあり、先生や先輩にアドバイスを頂きながらなんとか本番を迎えましたが、楽しんでもらうというよりは自分たちがやりきることと一杯になってしまいました。

そこで、今年もSOLに再挑戦することにしました。2年目となる今年は生物科学科の学科代表や理学部全体の学生代表にもなり、全体を把握することの難しさも感じています。全体の運営準備やチラシの作成広報など、参加学生が協力して行うことはたくさんあります。それを取りまとめることは



藤田 佑里香  
ふじた ゆりか

理学部生物科学科4回生  
出身校：滝高等学校(愛知県)

大変ですが、それら全てが当日、来場者の皆様にいかに楽しんでもらえるか、また自分達もいかに有意義な体験ができるかに繋がるという自覚を持って、日々活動しています。SOLという貴重な体験に参加する機会を与えてくださった先生方や一緒に参加している友人に感謝しながら、当日まで全力で準備を進めるつもりです。SOLを通して、ひとりでも多くの人に科学に興味を持ってもらえたら嬉しいです。



昨年のSOLの風景

## 卒業生からのメッセージ

### 夢に向かって 突き進もう!



山本 めぐみ  
やまもと めぐみ

理学部情報科学科2012年度卒業  
現 気象庁勤務  
出身校：京都府立桑田高等学校

私は小学生の頃に地球温暖化について興味を持ちました。しかし、当時の自分は将来なりたい仕事がなくイメージできず、高校生の頃、進路に散々悩んだあげく、幅広い分野について学ぶことができ、自宅からも通える奈良女子大学の情報科学科に進学しました。入学後は勉強だけでなく、部活動にも所属し、たくさんの友達に恵まれ、非常に充実した日々を過ごすことが出来ました。大学で主に学んだことは1、2年次ではプログラミング、研究室配属後はずっと興味があった地球科学を学ぶことができ、「衛星と航空機で観測されたシベリアの大気中メタン濃度の比較解析」というテーマで研究しました。また、気象学会や国際学会での発表など貴重な経験もできました。研究室の先生から、将来の進路として、気象庁はどうか?と提案していただき、これがきっかけで今の自分があります。私は現在、山梨県にある気象台で勤務しており、主に観測業務を行っています。気象台についてご存知の方は少ないと思いますが、気象台は全国各地の都道府県にあり、天気予報をはじめ、注意報や警報の発表も行っており、24時間365日、気象庁職員が監視しています。交替制勤



庁舎屋上で雲の観測をしている様子。天気の良い日は富士山がみえます。

## 山と妖怪 ドイツ山岳伝説考



吉田 孝夫  
よしだ たかお  
文学部  
言語文化学科  
准教授

八坂書房  
2014年6月発行  
4500円(税別)

「霊峰」と呼ばれる、古い信仰と伝説に彩られた神秘の山が日本の各地にあります。わたしの故郷である鳥取ならば、伯耆富士・大山がそれにあたるでしょう。

19世紀のグリム兄弟に『ドイツ伝説集』という著作があり、そこにはドイツの不思議の山にまつわる物語がたくさん収められています。有名な「ハーメルンの笛吹き男」の物語も、130人の子どもたちが消えていくその先は山の中でした。まるで妖怪そのものように、山は大きな口を開いて、人間をお腹の中に呑みこみます。

この本では、日本の天狗と山姥にもどこか似ている、ドイツの男女の山の妖怪を取り上げながら、山の怪異にまつわるドイツ人の想像力の世界をた

どりました。異界のイメージは、裏返しに、ドイツ人の日常と生きざまを教えてくれます。そしてここにキリスト教の死生観と、それ以前の古い異教的な世界観が作用していることは確かです。

しかしドイツの山はまた、古いものと新しいものが交錯する刺激に満ちた空間でもありました。鉱山大国だったドイツの山には、最先端の技術と思想が入りこみ、古来の信仰と絡み合います。そして山は、貴重な薬草を都市に供給する、商業の空間でもありました。そんな時代の空気をありありと伝える、ドイツの鉱山文化や薬の妖怪の図版も、この本の魅力の一つになっていることを望みます。

## うつと援助をつなぐ

—援助資源マッチングに向けた臨床心理学研究—



梅垣 佑介  
うめがき ゆうすけ  
生活環境学科  
心身健康学科  
助教

東京大学出版会  
2014年3月発行  
5400円(税別)

人は生きていく中でさまざまな困難や問題に直面し、つらく感じたり、落ち込んだりします。つらい状況に対処する方法は人それぞれですが、一人で抱えきれない時には家族や友達に相談したり、場合によっては臨床心理士や医師に相談することが重要になることもあります。

現代人にとって代表的なこのころの問題といえるうつは、家族や友達に話し理解やサポートが得られることで苦痛が軽減されることがあります。また、医療機関を受診したり、臨床心理士に相談したりすることで改善につながる場合も多く知られています。しかし、うつに苦しむ多くの人が他者に助けを求めません。この本は、うつ

を抱える人が助けを求める行動(援助要請行動)を様々な角度から検討し、うつに苦しみながら助けを求めない人への理解を深め、助けを求めやすい環境をつくるための臨床心理士の役割を検討したものです。

うつに関する援助要請研究を連ねたこの本は、対面式のカウンセリングに代表される一般的な臨床心理学のイメージとはちよつと趣が異なるように感じられるかもしれません。しかし、助けを必要とする人に働きかけるアウトリーチ活動もまた、臨床心理士の専門性の一つです。臨床心理学のみならず、心理学や援助要請研究に関心のある人に手に取っていただければ幸いです。

## 教員著書紹介

こんな本を出しました

本学教員が執筆した図書をご紹介します

## 人間に勝つコンピュータ将棋の作り方



篠田 正人  
しのだ まさと  
理学部  
数物科学科  
教授

技術評論社  
2012年11月発行  
1880円(税別)

コンピュータに将棋を指させる試みは今から40年ほど前に始まりました。開発当初はルール通り指させるのが精一杯だったコンピュータ将棋でしたが、今では流プロ棋士と比べても遜色のない指し回しを見せるようになっていきます。

本書では、開発者たちがどのような信念とアイデアによってコンピュータ将棋を強くしてきたかを彼ら自身の言葉で語っています。彼らがそれぞれの知識や経験から生み出したプログラムには個性があり、その強さの中に自己主張が隠れています。

私はこうした各プログラムの「棋風(個性、特徴)」を、コンピュータどうしの対戦棋譜の分析によって紹介しました。『ポナンザ』は超攻撃的、「激指」は守備的、などと分類し、プロ棋

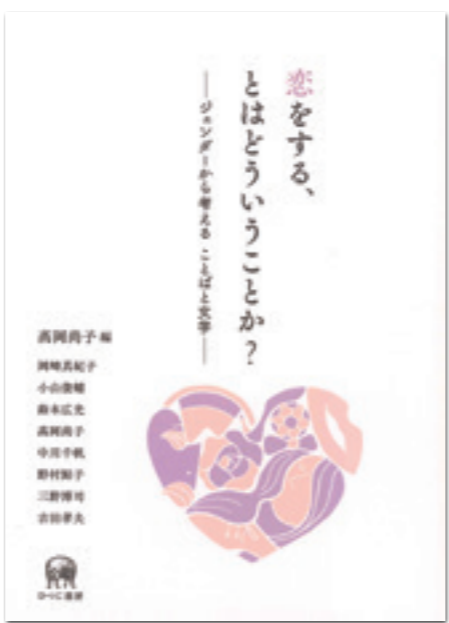
士とも比較して説明しました。

ここ数年コンピュータ将棋の進歩はさらに加速し、本書発行後に実施されたプロ棋士とコンピュータ将棋の対決「電王戦」は動画中継され、結果もマスコミで大きく報じられるほどの話題となりました。棋士が苦悶の表情で先を読む姿は多くの将棋ファン

の心を打ち、関連書籍も多く発行されました。一方で、コンピュータ将棋にも開発者のあふれる情熱が込められているにもかかわらず、その姿は画面ではほとんど現れませんでした。本書は開発者サイドから書かれた貴重なコンピュータ将棋紹介です。開発者たちの泣き笑いを描いた本として『ルポ電王戦』(松本博文著、NHK出版)もお薦めします(こちら私も少しお手伝いしました)。

## 恋をする、とはどういうことか?

—ジェンダーから考えることばと文学—



高岡 尚子  
たかおか なおこ  
文学部  
言語文化学科  
教授

ひつじ書房  
2014年4月発行  
1800円(税別)

この本には、みつつの特徴があります。ひとつめは、社会的な性のあり方である「ジェンダー」について、ことばと文学という側面から取り組んでいる点です。「ジェンダー」の入門書というだけでなく、ことばに性差はどう表れるか、文学に描かれる男女のあり方にはどのような意味合いがあるのか、といった問題について鋭く迫る、新しい試みの書なのです。

ふたつめの特徴は、著者全員が文学部言語文化学科の教員であるということです。日本古典文学(岡崎真紀子)、言語文化史(鈴木広光)、中国文学(野村鮎子)、米文学(中川千帆)、

独文学(吉田孝夫)、仏文学(小山俊輔・高岡尚子・三野博司)と、専門研究分野はさまざまですが、それぞれが「恋」をキーワードに、書くこととジェンダーにまつわる論考を寄せています。

みつつめの特徴は、問いかげがたくさん用意されている点です。あなた考える性の分別とは何か? 恋愛には男女という性に関わると思うか? など、問いかげの内容は多様です。質問に答える緊張感を、どうぞ、楽しんでみてください。自分の「性」に関する考え方がときほぐされていくはず

## 社会の第一線で通用する「キャリア」と「自立心」を育てる

学部生、大学院生が卒業後、社会の第一線で活躍できる高度専門職業人、研究者、教育者となるために、本学では在学時から将来を見据えてキャリアを形成・開発するとともに、自立した人間として考え、判断し、行動できる力を養っています。今回は、学生生活課就職係のキャリア・アドバイザーにサポート体制やアドバイスに関するお話を伺いました。

写真中央左:キャリア・アドバイザー 安村朗子氏  
キャリアカウンセラー歴6年。  
ポイントを押さえた指導に定評。

写真中央右:キャリア・アドバイザー 植松晶子氏  
キャリアカウンセラー歴7年。  
自称、人を元気づける名人。



キャリア・アドバイザーと学生生活課就職係のみなさん

### ——就職活動のスケジュールについて教えてください。

2016年春の卒業・修了予定者から就職活動のスケジュールは大きく変わります。経団連に加盟する企業は、就活の早期化・長期化による学業への悪影響などを理由に、会社説明会の解禁時期を3回生の12月から3月へ、また面接などの選考活動は4回生の4月から8月へと遅らせることが決まりました。現行スケジュールより説明会は3か月、選考活動は4か月遅くなります。これによって、内定が出る10月までの短期間で、就活生にかかる負担はとて大きくあります。公務員試験や教員採用試験などの兼ね合いもありますので、就職活動解禁時期までに、いかに企業研究や業界研究、インターンシップなどで情報を仕入れ、本格的な就職活動に備えられるかが重要になってきます。

### ——キャリア支援の取り組みを教えてください。

在学期間を通じて就職に対するさまざまな知識を深める多彩なキャリア教育科目を設定しています。1年生では、働きながら生きることの意味や現代社会の仕組みを理解する「現代社会と職業」、各分野の現場で活躍する方のお話を聞く「専門職論」を実施しています。2年生では、文章表現力・英語力・プレゼンテーション・ITなど、スキルの習得を目指す多彩な科目で、コミュニケーション力・問題発見力・企画力などの実践力を身につけます。3年生は、前期に全11回の基礎講座、後期に全17回の実践講座と、年間を通じてさまざまなテーマでセミナーを実施しています。また、インターンシップや佐保会主催

のガイダンス、4年生向けのガイダンスなどもあります。教員、公務員志望の学生には、専門の対策講座を一部有料で用意しています。

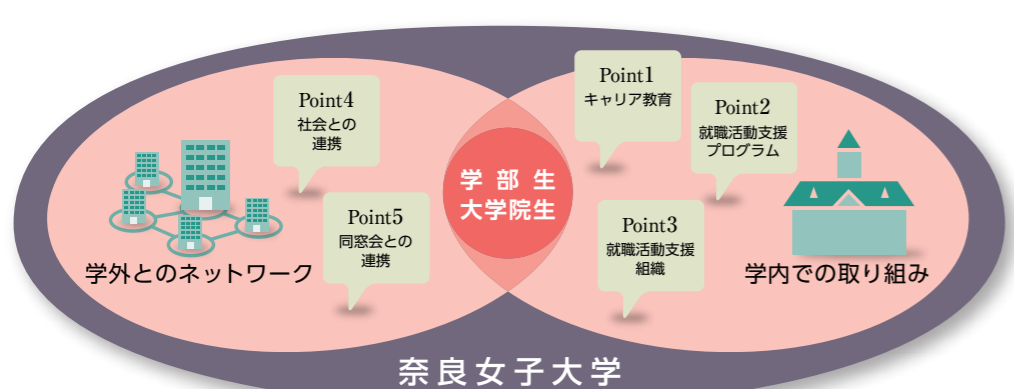
### ——学生にはどのようなアドバイスをしていますか。

「自分が納得できる就職活動をしてほしい」そのために、学生たちの自信を後押ししてあげることが、私たちの役割です。ガイダンスやセミナーなど、就職に関する質問や疑問に答えることはもちろん、自分の適性、キャリアプランや漠然とした不安などにも丁寧に向き合い、一人一人の学生らしさを活かせるアドバイスをしています。また、OG組織の佐保会との交流は非常に好評で、結婚・出産を経ても長く働きたいという多くの学生に、全国で頑張っている先輩からのアドバイスは参考になるようです。

### ——保護者へのメッセージをお願いします。

就職は将来が決まる重要な出来事ですが、見方を変えれば将来を決めることができるとも楽しい時期でもあります。保護者の方は学生にとっての一番身近な社会人ですので、機会があれば働くことの素晴らしさを、お父さんとお母さんから教えてあげてください。就職活動の時期の学生は大きなストレスを抱え、とても不安になりますので、学生が安心してしっかり動けるようなサポートをしてほしいと思います。疲れた学生がホッとできる環境を整えてあげることが重要ですね。

### キャリアの育成、自立心の涵養のために本学が取り組む5つのポイント



各企業の採用担当宛に、作成したパンフレット。本学の教育体制をアピールするとともに、学生の魅力を伝える。

### クラブ紹介

## 能楽部

部長  
多田 美鈴  
ただみすず

文学部人文社会科学部歴史学コース3回生  
出身校:愛媛県立松山東高等学校



奈良女子大学能楽部観世会は、4回生5名、3回生4名、2回生4名、1回生7名の計20名で活動しています。舞は京都の先生、お囃子は京都や大阪の先生に師事しています。部員は皆初心者です。

大きな舞台は年に2回あり、現在は11月の自演会に向けて日々稽古に励んでいます。普段は、能の一部である仕舞を舞うことや、そのバックコーラスである地謡の稽古をしています。

能楽はあまり触れる機会がないため、よく分からないものだと思っっている方もいらっしゃるかと思います。確かに感覚的でわかりにくい面もあります。しかし能楽は理論的な面もあります。能楽の型は、人体の構造に従った最も効率の良い動きをします。舞では、主に九分割された舞台の特定の場所を通ります。謡は、何種類かあるリズムの中に、五音と七音の言葉が当てはめられています。当てずっぽうで舞えるものではなく、理論を学ぶ必要があります。もちろんそれを実行するために身体も鍛えていかなければなりません。私はこの部活に入ってから、人々の姿勢



2014年6月21日三大学合同発表会の仕舞

や歩き方などに目が向くようになり、何気ない動作であっても、自分は周囲からどのように見えているか考えるようになりました。また、プロの先生方のお世話になることで、目上の方々との接し方も学ぶことができました。

考えて動きなさいと指導されることもあれば、頭で考えるなど指摘されることもありません。理論的に構成された動きをしつつも、身体感覚を忘れてはならない、能楽はその様なものではないかと感じています。個人の自己満足で終わらず、舞台を見に来てくださる方々や先生方、そして自分に恥じない舞台となるよう、精進して参りたいと思います。

### 国際交流

## 異文化との出会い

2013年4月に、留学生として奈良女子大学に入学しました。大学では、1年を通して、日本の文化に関する活動がたくさん行われています。例えば、茶道、いけばな、文楽鑑賞などがあります。それらの活動は普段あまり体験できなく、日本人でも経験したことがある人は少なそうな活動です。その活動は、留学生のみでなく、日本人と一緒に参加できるものもあります。日本人と一緒に参加することによって、日本人との交流が一層深まります。また、留学生が学外でも多くの人と友達を作り、様々な文化に触れられるように、大学では、学外の活動も紹介してくれます。私は大学の紹介を通して



母に感謝の気持ちを込めて、いけばなをやりました。

奈良女子大学では、現在約140名の外国人留学生が日本人学生とともに学んでいます。今回は、昨年4月から本学で学ぶ外国人留学生に日本の生活を紹介してもらいました。

林 慧儀  
リンフィー

生活環境学部生活健康・衣環境学科2回生  
出身校:アメリカン国際高等学校(マレーシア)

て、異国の友達ができたり、夏祭りに参加することができました。日本に来てから初めて夏祭りに参加したのです。無料で浴衣が着られたし、金魚すくいや盆踊りをして、非常に楽しかったです。大学での活動なしでは、これらの機会を逃していたかもしれません。これからの留学生生活も楽しみにしています。



## 本学のプロジェクト「らくらく農法」に朗報!!

～協力関係にある奈良県吉野郡下市町が第2回プラチナ大賞「優秀賞」を受賞しました～

本学では農山村での高齢者の営農を支えることを目的とした「らくらく農法」開発プロジェクト(寺岡伸悟・藤原素子・成瀬九美教授、水垣源太郎准教授ら参画)に取り組んでおり、奈良県吉野郡下市町と協力して実践しています。この活動が評価され、7月22日に開催された第2回プラチナ大賞最終審査発表会で下市町が「優秀賞」を受賞しました。プラチナ大賞とは、地方公共団体や企業・有識者が日本の新しいまちづくりを提案するために結成されたプラチナ構想ネットワークが創設した賞です。イノベーションによる新産業の創出や、アイデア溢れる方策によって地域の課題解決を目指す全国各地の取り組みを表彰しており、第2回となる今回は全国の自治体や企業等から58の応募がありました。下市町は「『らくらく』で、プラス10年イキイキ元気!働く老若男女が笑顔で集う町 下市町」の名でプレゼンテーションし、見事「優秀賞」に輝きました。



表彰式の様子(東京都千代田区にて)  
左端:松本(すぎもと) 龍昭 下市町長  
右端:寺岡 伸悟 文学部教授

らくらく農法

検索

## 受験生に向けて、奈良女子大学大学説明会を開催しました

奈良女子大学主催の大学説明会を全国各地で開催しています。この大学説明会は、本学についてより深く知ってもらいたいという趣旨のもと今年から始めたものです。入試説明のみにとどまらず、大学で何を学べるかや学生生活の様子など、本学に在籍する教員と学生が直接受験生・保護者および高等学校教員に語りかけるという内容です。来訪者が教員や在學生に気軽に質問できる場も設け、会場では本学の教員・学生と受験生が熱心に語り合う様子が各所で見られました。本年度は京都(9月2日)、大阪(9月30日)、東京(11月4日)、愛知(11月26日)の4会場で開催し、参加していただいたみなさんと積極的な交流を持つことができました。この経験を活かし、次年度以降も継続して開催していく予定です。



9月30日 大阪会場の様子

使える!入試情報検索ワード集  
前に「奈良女」とつけて検索!

入試情報

応援メッセージ

学費

受験生の方へ

## 奈良女子大学なでしこ基金を設立しました ～ぜひご支援ください～

奈良女子大学では、教育研究・社会貢献活動及び国際交流の一層の推進並びに教育研究環境の整備充実を目的として、既存の「奈良女子大学基金」及び「奈良女子大学国際交流基金」を整理統合し、2014年から新たに「奈良女子大学なでしこ基金」を設立しました。同基金事業の一環として、海外の協定校へ派遣留学する学業成績・人物ともに優秀な学生に対する留学援助を目的に、奈良女子大学なでしこ基金派遣留学奨学金が支給され、7月28日には奨学金決定通知書の授与式が開催されました。式では対象学生に決定通知書が授与され、今岡学長から激励の言葉が贈られました。なでしこ基金は本学の同窓会である社団法人佐保会が中心となり、卒業生の皆さまはもとより、広く産業界や地域の皆さまのご厚意により成り立っています。基金の趣旨をご理解いただき、なにとぞ今後とも格段のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



7月28日に開催された同基金派遣留学奨学金  
決定通知書授与式の様子

奈良女なでしこ基金

検索

ならじよ Todayへのご意見  
ご感想を是非お聞かせ下さい。より  
良い誌面作成のため皆様の叱咤激  
励をお待ちしています。(編集部)

ならじよ Todayに衣替えし  
て、今回が2回目の発行となりま  
す。第18号から、読者に「ならじよ」  
をより深く知っていただきたく、大  
学の取り組みや学生の活動を取り  
上げた特集を組み始めました。21  
号からはページ数も一挙に増え、お  
伝えできる「ならじよ」の素顔の情  
報も増えました。しかしまだまだ  
試行錯誤の状況。もつともつと、生  
き生きとした「ならじよ」の魅力  
を伝える方法はないかと思案してい  
ます。⑤

到着した参加者とスタッフを迎  
えてくれたのは、村の子どもたち  
三人。「これで村の人口が増えたら  
いいなあ」という子どもたちの言葉  
に、ハッとさせられました。濱川さ  
んの取組が実を結ぶことを強く願  
わずにはおられません。⑥

今号の特集で紹介された野迫川  
村の「田舎コン」。その取材に同行  
しました。村に向かう道中では、豊  
かな自然が目を楽しませてくれま  
したが、2011年に村を襲った水  
害で崖が崩れた箇所もあちこちに  
あり、自然の恐ろしさを認識しま  
した。

